

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270200894		
法人名	医慮法人 翠山会		
事業所名	介護老人保健施設すいざん荘 グループホームぬくもり		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町74-2		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節折々に皆様楽しんで頂けるよう、花見・外食・温泉へお連れするなど色々な行事を行っています。
 三度の食事、家庭的なもの、季節のものをお出しするようにしております。
 又、お食事が皆様の楽しみの一つになるよう、精一杯努力しております。
 お一人お一人の個性を生かし、自由にゆったりと、安心して、自分らしく過ごせるよう、職員一同、皆様のお傍に寄り添い、心を込めてケアをしています。法人の他の施設と連携を取り利用者のご希望、ニーズにそのつどお答え出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の見晴らしのいい場所に位置し、平成11年に市内でも最も早く設立された事業所である。「やさしさと笑顔あふれる、ぬくもり家族」という指針の基、利用者と職員が一緒にひとつの家庭を築いている事業所である。母体が医療法人であり医療面のサポートがしっかりしているとともに、同法人の老人保健施設やグループホームが両隣にあるため、行事の際や緊急時等に連携が取れ、利用者や家族の安心に繋がっている。事業所は研修等職員育成に力を入れており、職員自体も積極的にアイデアを出し工夫するなど、家族同様の利用者への思いを職員一人ひとりが持って支援の質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らしている事を自覚した基本理念を5つ掲げさらにもう1つ独自のサブ理念を掲げている。職員は理念を共有し会議で話し合い意識して実践している。	5つの基本理念は月1回の会議等で職員間で共有し確認している。サブ理念の「やさしさと笑顔あふれるぬくもり家族」は、職員が考えた理念であり地域の中で具体的に実現できる内容で、ぬくもりのある温かい家族を目指し職員は日々、支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(公民館まつり)にみなさんが日頃、手がけている作品を出展したり、公民館へ出向き地域の皆さんと出し物を楽しんだりしている。両隣の方とも日頃よりお付き合いさせてもらい、お庭になった果物やお花を頂いたりして、交流させてもらっている。	事業所開催の行事は地域に招待状を配布して案内しており、住民の参加がある。地域からは週に1回紙芝居や本の読み聞かせのボランティアや地域保育園の遊戯、高校生の職場体験を受け入れている。地域公民館まつりに利用者作成の作品を出品するなど地域との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に高齢者支援センターの職員に参加してもらい、地域の方、家族の方々の意見、疑問点、要望等お聴きし、相談に乗ったり又意見の交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を行っている。地域の方、御家族の方利用者の方の参加を頂、行事の報告、近況報告をしている。皆様よりいろんな意見、質問等をお聴き話し合いサービス向上に活かしている。	年6回、規定メンバーの参加で開催している。内容は利用者状況、行事報告等で、主に参加者から出る意見要望を聞き支援に繋がるようにしている。高齢者支援センター職員から事業所利用の方法や疑問点について説明があり、参加者の理解が得られサービス向上に繋がった例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席して頂いている。解らない点、疑問点などは話し合っている。近況報告もしている。その他相談したい事がある時も連絡し連携をとっている。	市の職員が毎回運営推進会議に参加するため事業所職員との信頼関係ができています。サービスに関する疑問や職員のキャリアアップ等アドバイスを受け、その際、事業所の実情も報告するなど積極的に関わることによって情報を得て支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を」会議の場で職員で研鑽している。「どんな事があっても拘束は行わない」という姿勢でケアにつとめている。玄関の施錠は外部からの侵入による安全確保で皆さんの希望に応じて自由に開錠している。	法人内に「身体拘束委員会」があり、研修には職員が参加し拘束について理解し、拘束のない支援に活かしている。利用者の尊厳を重視し敬語を基本としており、日々の気づきは、職員間で注意し支援している。ベッド柵はないが安全確保のため日中も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の高齢者虐待防止の講習会など、管理者、職員参加し勉強をしている。又、持ち帰り職員全員と話し合い、意識を深めている。		

グループホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を持ち、理解を深めている。現在必要な方はいらっしゃらないが、必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の方に自由に見学に来ていただき、説明をし話し合う、不安や疑問点など十分に聞き説明をしている。理解、納得していただけるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の方、事業所関係者、行政の方が参加する運営推進会議で利用者、家族の意見、要望をよく聴くようにしている。又週に1回来られているボランティアの方などに利用者の気持ちなどを話せる場を作っている。それを運営に反映させている。	家族の意見、要望は運営推進会議や来訪の際に聞くようにしている。家族から散歩を多くしてほしいと要望があり職員の工夫で週に2~3回の散歩を実行している。意見要望は、限られた家族になり家族間での交流はみられない。家族との意見交換が事業所側の今後の抱負となっている。	毎月「ぬくもりだより」を利用して家族への情報発信に努力しているが意見要望は、限られた家族で家族間の交流の場も少ない。家族の意見要望は事業所の支援向上に繋がるため行事の後など家族間の交流や意見の出やすい工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、会議を行っている。職員の意見、提案、又どんなに小さい事でも、活発に話してもらっている。皆で話し合いよりよいサービスが出来るよう努めている。	事業所会議で意見交換の場があり、職員が意見や要望を言える体制ができている。職員の昼食時間について要望があり検討し見直し改善している。また、職員の希望でプランターでの野菜づくりや、スプリンクラー設置提案も実現しており、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に合った責任のある役割を持たせ、やりがい、向上心の持てる環境にしている。労働時間など職員が働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外のさまざまな研修を受ける機会を積極的につくっている。個々に合った研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の会合、研修会などに参加し交流をしている。訪問したり、訪問されたりして意見の交換をしている。そこで得たものをサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を多く収集し状況を把握したうえで、本人と面談をする。本人の困っている事、不安など理解するようにしている。本人の気持ちを気軽に話せる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時より、御家族が困っていること、不安などの状況をよく聴き、相談にのっている。御家族の身になりより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族に今、何が一番必要なのか、御家族と一緒に考えている。そして一番適当と思われる方向の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方から学ぶ事(昔の生活の知恵など)がたくさんある事を自覚している。日頃の会話の中にお互い支え合っている事を認識しつつ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事で何かあったら、報告し相談をしている。御家族と共に本人を支えている。御家族も悩みなど気軽に言ってもらってよい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の地域の友人の方がしばしば訪問される。長い時間一緒に昔のようにお話をしたりしてひと時を過ごされている。本人も昔を思い出して大変満足されているようだ。知人の方々いつでも訪問できる環境づくりに努めている。	利用者の自宅に帰り周辺を散歩したり、馴染みの商店街で買い物支援をしており、近隣の方の訪問もある。家族の要望で墓参りや利用者と家族で出掛ける温泉に職員が同行し支援している。また、同窓生との文通や、同窓会の誘いもあり関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、日常会話、行動より利用者間の関係を職員はよく把握し、情報を共有している。利用者間がより良い関係になるよう孤立しないようにいろんな場面で支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了(病気等)しても御家族より相談があったりしている。必要に応じて相談にのり、必要な対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話で職員とマンツーマンで話す機会をつくり、お1人お1人の思いを聴くようにしている。そして本人の意向、希望を把握し記録に残したり、会議で話し合ったりして情報を共有し本人の意向に添うようにしている。	入浴時、レクリエーション時、食事中などに利用者の思いを聞く機会を持ち、把握している。表現困難な利用者には寄り添い、好きな話題で表情を見ながら判断している。把握した思いや意向は記録し職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中に昔話などしてその方の生活歴、暮らし方を把握し又御家族からも情報を得るようにしている。いろんな情報をもとに本人の全体像を知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お1人お1人の1日の過ごし方、出来る事出来ない事の把握をよく観察するようにしている。職員は気づいたことを記録に残し職員全員、情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の希望や意見を良く聴き、話し合い把握したうえで職員全員でカンファレンスを行う、職員の意見、提案など聴きいれ協議し介護計画を作成している。	職員1人が利用者2人を担当し計画を立案し、それを基に本人、家族等の意見を反映して作成している。計画に沿って毎日、経過表や個人記録が詳細に記入している。月1回の会議ではその記録を活かしており、3ヶ月に1度全職員で見直している。また、利用者の状態によっては臨時で見直し計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子、変わった事、気づきなど本人の言葉で記録に残している。職員は必ず目をとおり、職員間でどんな小さな事も情報を共有している。話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、御家族の状況、又要望、希望に対して母体老健、高齢者支援センターなどと連携を図り、本人にとって一番良い支援をするようにしている。		

グループホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館長さん、民生員の方と日頃より交流を図り、何かあれば駆けつけてもらえるようにしている。地域の交番とも日頃より交流している。皆様が安心して日々暮らせるような環境を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望を尊重し希望される医療機関へ受診してもらっている。特に希望がない場合は事業所の係りつけ医に受診して頂いている。又その方に適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は利用者と家族の意向に沿って支援している。利用開始前のかかりつけ医の受診は基本的に家族が同行しているが、場合によっては職員が支援し、受診後の結果報告は相互に行い記録し職員で共有している。毎週、母体医療機関医師の往診、月2回の歯科医による口腔ケアが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、又日常の様子を観察し気づきがあれば主治医へ報告、連絡をし指示を受け適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、医療関係者と密に連絡を取り、情報交換をしている。お見舞いを重ね、本人、御家族の状態を確認し、今後の事や退院の事を病院関係者との相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごすための取り組みを行っている。病状急変した場合主治医との連絡は24時間体制で連携をとっている。看取りの指針を文書化して同意をとっている。又母体の看護師の指導のもと職員は研修を受けている。	利用者の高齢化が進んでおり、看取りについてのボディケア、メンタルケア、看護面での支援が具体的に指針に示されている。指針は家族に説明し同意を得ており、内容は職員間で共有している。現状では看取りはないが母体病院、看護師、介護職員の連携体制が整い研修にも力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の看護師による応急手当の研修又、外部の研修、消防署の講習など職員は出席して勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震など、災害時のマニュアルを作成し、常備している。防火訓練も母体の老健、同列系の事業所と連携をとり、訓練を定期的に行っている。消防署にも立ち合ってもらって指導を受けている。職員、利用者共々に行っている。	年2回の避難訓練を両隣の併設事業所と共に想定を変えながら実施している。内1回は消防署立会いである。スプリンクラーを設置しており、日頃から避難具の点検、ライト付きヘルメット、水や食料の備蓄、避難場所の確認等実施している。また自治会長の訓練参加で地域の協力を得る体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、言葉遣い、適切な対応には、職員一同気をつけている。お一人、お一人の誇りや、プライバシーを損なわないよう、慎重に対応している。会議の場でも話し合っている。	利用者に対する職員の声の大きさや言葉掛けは丁寧でやさしく、特にトイレ誘導時等、他の利用者には気づかれないような配慮が見られる。個人情報については職員と守秘義務の誓約書を交わし、記録は所定の保管場所が定められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日行っている、レクリエーションの中で、今一番食べたい物・好きな食べ物をゲーム感覚で言ってもらったり又、入浴時にゆっくり会話して、昔話や思いを聞き出したりしている。なるべく、本人の希望・思いを自ら表せるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、本人の意志を基本としている。たとえ、皆で楽しむレクリエーションでも、居室にて横になりたいと言われる方は、自由に居室にて過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服も、自分の好みの服を着られている。視覚障害の方でも、下着・靴下の一つから選ばれ、職員がお手伝いをしている。朝、外出時には、お化粧をされている方もいらっしゃる。欲しい化粧品は、頼まれたりお買物に行ったりして買われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好みを把握し、なるべく好みに合った食事をお出しするようにしている。利用者と職員一緒に準備をし、食事と一緒に楽しんでいる。見守り・介助が必要な方も、さりげない介助・声かけにより、楽しく食事が出来ている。	調理専門スタッフが利用者の好みを把握し施設や病院の食事ではなく家庭的な料理に心がけ季節折々の旬の食材を取り入れた食事を提供している。利用者に応じた食事形態を工夫し、利用者にとって食事が楽しみになるよう職員は支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、一人一人良く把握し体調に合わせ調整をしている。栄養バランスは時々、母体の管理栄養士に検討してもらっている。水分量も要求時はもちろん、朝昼夕、夜間とその方に応じてお茶又は、白湯をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。忘れられる方は、声かけを必ず行って、御自分で、出来られない方も介助にて行ってもらっている。義歯は夕食後洗浄剤で毎日洗浄、歯科の往診による口腔ケアも月二回行っている。		

グループホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを日中、夜間共に把握し、支援をしている。尿意が無い方も、その方に合った排尿ペースでトイレ誘導を行っている。夜間はトイレを、ベッドサイドに設置し睡眠時の体の負担を少なくしている。	日中はできるだけ布パンツを基本にチェック表で個々の排泄パターンを把握し、職員間で共有しながら支援を行っている。夜間のポータブル利用者は3名で、使用後はその都度清掃し、気になる臭気はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるだけ、水分を取ってもらうように、働きかけ、食事の内容も乳製品・野菜を多く取れるようなメニューを考えている。又、身体を動かす、健康体操、レクリエーションを毎日している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は、決まっているものの、個々で自由に入浴する、しないは決められている。体調の管理をし、自由に入浴を楽しめるよう臨機応変な対応で、行っている。	基本的に隔日の入浴であるが、その日の利用者の体調や状況によって希望に応じて支援している。入浴を拒否する方には納得して入浴してもらうよう話し、少なくとも週に1回は入浴するよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出・入浴後又、体調があまり良くない時など、個々の具合に合わせてソファでゆっくりされたり、畳で横になってもらったりしている。居室ベッドにも、自由に横になられている。夜間時折、不眠時は、昼間散歩やお手伝いで睡眠に備えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理説明書を、見やすい場所に設置し、常に目を通されるようにしている。服薬時は、二人で確認して手渡し、きちんと服薬出来るよう努めている。薬が、変更された場合も、もれなく記録し職員全員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で、一人ひとりの力を発揮してもらえるように、支援している。配膳の手伝い、園芸作業、お習字、ペン習字など楽しんでされている。又、職員と共に、おやつ作りなど一緒に作り楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気、本人の気分、希望に応じて、散歩、又は外に出ている。お買物・ドライブにも出かけている。故郷など、家族の方と、自由に行かれたり、季節事に、花見・温泉・外食など、お連れしている。	距離的に事業所下にある企業の駐車場が散歩に適しており、気候、天気や利用者の体調等に応じて外出している。希望があれば買い物にも同行し支援している。また、母体法人の協力を得て他事業所と合同で車イスの方を含め花見や動物園、温泉等に出掛けている。	

グループホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や、管理能力に応じて自分で、管理している人、財布に小額お金を持っている人、様々です。外出時には、自由にお買物したりして、楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望で職員がかけてやったり、本人に代わり話をされている。お手紙など、自由に自分の大事な人に書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間で、目に強い日差しはカーテンで調節している。皆様の希望で、開閉している。居室の温度も、本人の希望でために調節している。居間の部分は、台所からの調理の匂いや音などが聞こえて生活間がある。窓から見える景色も自然の木立が見え、季節が解りやすい。	ホールは日あたりがよく明るい。ソファー、椅子、備品など利用者の状況を考え整理整頓している。床の色を明るくしたり、季節の花を飾り、壁面に利用者と職員の「ぬくもり家族写真」を掲示するなど明るく、温かい雰囲気となるよう工夫している。掃除は、職員が行い清潔で気になる臭気もなく居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにて、気の合った方同士、お話をされたり畳部分に横になって休まれたり、新聞を読んだりゆっくりと思い思い過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をして、御主人のお位牌など飾られ、お茶をあげられたり、手を合わせられたりされている。日々、安心の中に過ごされている。御自分で書かれた、お習字・絵など飾られたりして、思い思いに自由に居心地良い場所にされている。	利用者の趣味が活かした居室となっており、花を飾ったり、得意の習字や写真を貼るなど利用者の個性が出ている居室である。ポータブルトイレもわからないよう布をかける工夫がある。掃除が行き届いており清潔で居心地のよい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器、シルバーカーで、自由に行動出来るように、ソファーの配置を考えている。視覚障害者の方でも、自由に自己にて、移動出来るようにしている。		